

大橋家住宅



指定区分	国指定重要文化財(工芸品)
読みかた	おおはしけじゅうたく
所在地	倉敷市阿知
指定年月日	昭和53年1月21日
解説	大橋家は中島屋と称し、金融業を兼ねた大地主で、倉敷の新興商人グループ新緑の一人であった。主屋は一部二階、入母屋造、本瓦葺で、棟札、墨書等の資料から寛政8年(1796)から寛政11年にかけて主要部分が建築された。屋敷構えは、旧往来に面して長屋門が建てられており、主屋が通りに直接面することなく、門の奥側に配置されている点に特色がある。往時の新緑層の屋敷構えをよく伝え、倉敷町屋の典型を示す。
アクセス方法	JR倉敷駅から徒歩約10分
公開状況	入館：9:00～16:30／有料／休館：月曜(祝日の場合は翌日)他〔問い合わせ先〕086-422-0007
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(工芸品)
ぶんかざいめい (文化財名)	大橋家住宅
よみかた	おおはしけじゅうたく
しょざいち (所在地)	倉敷市阿知
していつひ (指定した日)	昭和53年1月21日
せつめい	大橋家(おおはしけ)は、江戸時代(えどじだい)に商売(しょうばい)や、今でいう銀行(ぎんこう)のような仕事(しごと)をしていました。住宅(じゅうたく)の主屋(おもや)や米蔵(こめぐら)などは江戸時代中期(えどじだいちゅうぎ)に建(た)てられました。現在(げんざい)、公開(こうかい)されて内部(ないぶ)を見学(けんがく)することができます。